

平成17年9月6日大水害

あれから10年

>21<

教訓は生かせるか：

パネルディスカッション

「災害の教訓を生かす」
自助・共助・公助」

【杉尾】では、図師部に完成しています。延岡市、宮崎県の災害復旧の取り組みについてご紹介ください。

【図師】今回の公共土木施設災害の状況ですが、県と市町村を合わせて、箇所数が2942カ所、被害総額が513億円ということ、一つの台風としては過去最大の災害でした。

このうち、県の対応する部分が1771カ所、約316億円でした。このうち、翌年の平成18年度までに全体の98%が完了しています。残りの部分についても、平成19年度まで



図師雄一氏

旧復旧諸塚など土地利用一体型で 災害復旧 道路は孤立させないよう くしの歯で集落を孤立させないよう

す。五ヶ瀬川のほか、太田川水系でも激特事業を行っており、合計で約47億円、平成17年から21年にかけて事業を行っているところで

河川の整備を行う場合は、堤防を整備するとか、河道の掘削をして水が流れる断面を確保するというのが基本です。諸塚のような、地形的にそういう対応をすることがなかなか厳しい場合に、土地利用一体型水防事業というのを導入して、宅地のかさ上げなどを実施しております。

このほかにも、日之影町の役場の周辺、あるいは耳川の下流、それから大淀川、こういった所でも土地利用一体型の水防事業を実施しており、総額で約143億円を投入しています。現在も一部実施中です。

それから、これはそのときの災害復旧とはちょっと違うんですが、平成17年の台風14号では山間部の被災がかなり大きいという状況でした。それで、例えば孤立

諸塚では、当時の道路より約6メートル高い場所が（洪水で）被災しました。その高さまで地盤を上げて、いわゆるまちづくりという一度やり直すという対応を取っています。

このほかにも、日之影町の役場の周辺、あるいは耳川の下流、それから大淀川、こういった所でも土地利用一体型の水防事業を実施しており、総額で約143億円を投入しています。現在も一部実施中です。

それから、これはそのときの災害復旧とはちょっと違うんですが、平成17年の台風14号では山間部の被災がかなり大きいという状況でした。それで、例えば孤立

集落の発生に対応するために、東北の大震災のときに、くしの歯作戦という話がありまして、それと同じように、宮崎の場合も、沿岸沿

広範囲で道路が冠水し、一時孤立した地区も相次いだ（平成17年9月6日午後4時すぎ、日向市東郷町内）



椎葉に向かう国道327号は諸塚まで完成しており、諸塚から椎葉の区間についても未改良区間を含め、全て事業に着手をしているところです。国道388号、219号などの道路整備も併せて実施しているところです。

コーディネーター
杉尾哲（宮崎大学名誉教授）
パネリスト

首藤正治（延岡市長）
図師雄一（宮崎県土木整備部長）
大塚法晴（元延岡河川国道事務所長）
森川幹夫（九州地方整備局河川部長）
猪狩信浩（NPO法人宮崎県防災士ネットワーク理事長）
福島宏二（元延岡市消防団長）
亀長馨（元北方町川水流区長）

防災・減災を考える
シンポジウムから――

国道218号では先日、北方・蔵田間が完成しました。日向から